Postdoctoral Awardと優秀演題賞を受賞
― 第28回日本医療薬学会年会 ―

第28回日本医療薬学会年会（神戸コンベンションセンター、昨年11月23～25日）で、薬学部の前田真之助教（臨床薬学（感染制御薬学部門）担当）がPostdoctoral Award、薬学部4年生の小田原瑛理さん（基礎医療薬学講座薬剤学部門）が優秀演題賞を受賞した。

日本医療薬学会は約12000名の会員数を誇り、日本の医療薬学領域を代表する学会として知られている。

前田助教が受賞したPostdoctoral Awardは、医療薬学分野に関する研究課題に取り組んだ学業活動により学位を取得した会員を対象に、優れた学業研究を修め将来性が期待できる人物を表彰している。前田助教は自身の学位論文「菌血症患者における多職種チームによる治療支援の臨床的アウトカムと予後関連因子に関する研究」が認められ今回の受賞となり、表彰式後に記念講演が行われた。

また、優秀演題賞を受賞した小田原さんは、自身の演題「アムホテリシンB※1含有ガム製剤の開発～アムホテリシンBの溶出及び効果の持続～」を口頭発表し、360演題（口頭発表部門）の中から選ばれた。

※1：ポリエン系抗生物質の1つ

前田真之助教のコメント

このたび、平成30年度日本医療薬学会Postdoctoral Awardを受賞いたしました。私は、血流感染症の予後関連因子に関する基礎的・臨床的な研究の成果により本学で学位を授与されました。その学位論文が学会からも評価され、大変うれしく思っております。研究のご指導・ご支援を賜りました先生方に感謝申し上げます。引き続き、研究活動に邁進してまいります。

小田原瑛理さんのコメント

優秀演題賞という栄えある賞をいただくことができ、とても光栄に思います。

今回受賞した研究は薬剤の味や匂いが原因で、服薬アドヒアランス※2が低下してしまう問題に対し、不快な風味により特に小児患者さんを悩ませているアムホテリシンBを用いて経口ガム製剤を作製するものです。風味の改善だけでなく、抗真菌作用が保持されていることを確認できました。それでなくても病気で苦しんでおられる患者さんが、服薬で辛い思いをしなくて済むことに貢献できると考えています。

未熟な私が、このような素晴らしい経験をさせて頂けたのも、ひとえに指導して下さった先生方と研究のバトンを託してくれた諸先輩方のおかげだと思っております。これからもたゆむことなく努力していきたいと思います。

※2：患者が積極的に関わり治療を受けること

原田努准教授（基礎医療薬学講座薬剤学部門）（左）、小田原瑛理さん（右）

最優秀ポスター賞と優秀ポスター賞を受賞
― 製剤機械技術学会第28回大会 ―

製剤機械技術学会第28回大会（千里ライフサイエンスセンター、昨年10月18～19日）で、薬学研究科4年生の江畠麗さん（基礎医療薬学講座薬剤学部門）が最優秀ポスター賞、薬学研究科4年生の嶋﨑真耶さん（同部門）が優秀ポスター賞を受賞した。

同大会のポスター発表は、製剤設計物性・品質評価技術及び関連技術などが対象となり、江畠さんが「粘性溶液が錠剤の崩壊時間・溶出率に及ぼす影響に関する検討」、嶋﨑さんが「製剤の飲み込み易さのin vitro評価」の題目で、それぞれ受賞した。

江畠麗さんのコメント

この度、最優秀ポスター賞を受賞できたのは、日々細やかにご指導をして下さる中村教授、原田准教授をはじめとする研究室の先生方のおかげです。一生懸命行った研究が評価され、身に余る光栄であると同時に、ますます精進していかなければならないと身の引き締まる思いです。

嚥下困難な患者さんはとろみ水という粘性溶液で薬剤を服用されることが多いのですが、本研究では粘性溶液が錠剤の有効成分の溶出に及ぼす影響について検討し、その問題を低減する薬剤選択について示しました。まだまだ取り組むべき課題は多く残っておりますが、「患者さんの有効かつ安全な服薬を支援する」ことを目標に今後も頑張ります。

嶋﨑真耶さんのコメント

受賞は非常に驚きました。自分がやっていることを評価していただけたことは嬉しく、また励みにもなりました。

私は、錠剤やカプセル剤を服用する際に感じる引っかかりや飲み込みやすさを定量的に測定する方法を開発しました。従来の測定法では評価できなかった薬剤と人工疑似皮膜間に生ずる摩擦抵抗を、水での服用を想定した水中条件で測定しました。本法により滑りがよい製品を選定したり、飲み込みやすい製剤を設計することができ、患者さんのアドヒアランス※1の向上に貢献できると期待しています。

※1：患者が積極的に関わり治療を受けること

江畠麗さん（左）、嶋﨑真耶さん（右）

富士吉田キャンパスに温泉

昨年4月から掘削工事を進めていた富士吉田キャンパスで11月29日、待望の温泉が湧き出た。これは昭和大学の「富士吉田キャンパス温泉エネルギー活用プロジェクト」に基づき行われていたもの。

同プロジェクトは、富士山麓地域の豊かな自然環境の中における学生・職員の住環境の向上・福利厚生の充実、省エネルギー対策の一環として温泉を発掘していた。今後この源泉の活用について具体的な計画が立てられていく。

源泉名	昭和大学温泉
泉　温	25℃（調査時における気温15℃）
湧出量	190ℓ／分
泉　質	ナトリウム・カルシウム－硫酸塩・塩化物温泉 ※疲労回復や健康増進に効果があるとされる。

内視鏡検査支援システムが薬機法承認

工藤進英センター長（昭和大学横浜市北部病院消化器センター）らが開発を進めてきた人工知能（AI）内視鏡画像診断支援ソフトウェア（EndoBRAIN(R)）が、国内5施設で実施した臨床性能試験を経て「医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律（医薬品医療機器等法、以下「薬機法」）」に基づき、クラスⅢ・高度管理医療機器として昨年12月6日に承認を取得した。

同システムはディープラーニング（深層学習）により約280万フレームの学習用画像を学びとっており、ポリープ・癌をリアルタイムで検知し、医師による病変の発見をアシストすることが可能で、これにより微小癌や前癌病変を見落とすリスクを低減し、大腸癌による死亡を抑制することが期待される。臨床研究では791人の患者を対象に診療現場での精度評価を行い、93・7％の精度で微小大腸ポリープを診断した。

薬機法の承認を取得したことにより、同システムの製造・販売に向けて一歩前進したことになり、今後の医療分野におけるAI活用がさらに活性化されることが期待される。

平成31年度
医学部附属看護専門学校
一般選抜入学試験（Ⅰ期）結果

年度		平成30年度	平成31年度
募集人員		65	70
志願者数	男女	男　24	男　27
		女　304	女　338
	計	328	365
	前年比	＋23	＋37
合格者数	男女	男　6	男　4
		女　108	女　102
	計	114	106

看護専門学校の学生が病棟でキャンドルサービス

看護専門学校の学生が昭和大学病院と昭和大学病院附属東病院で昨年12月20日、キャンドルサービスを行った。

これは、看護の母といわれるナイチンゲールが夜遅くまでキャンドルの灯りを掲げて傷病者を見回ったエピソードにちなみ、学生たちがキャンドル片手にクリスマスソングを歌いながら病棟を回る行事。入院患者さんにクリスマスの雰囲気を味わってもらうとともに、快復を祈って毎年この時期に行っている。

学生たちが病棟を歩き始めると、患者さんが病室から出てきて眺めたり、一緒に口ずさむ姿が見られた。

また、小児病棟ではキャンドルの代わりにサンタクロースの衣装を着た学生たちが「ジングルベル」などのクリスマスソングを歌い、子どもたちは一足早いクリスマスに笑顔を見せていた。

白菊会連合会総会が開催

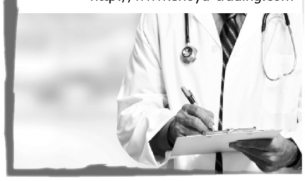
白菊会連合会平成30年度総会が昨年12月2日、大井町のきゅりあんで執り行われた。

白菊会は、医学および歯学の教育と研究のため死後に献体することに同意した会員が所属する篤志献体の組織であり、各大学などに支部組織を持っている。

同総会には参加9大学12学部から747名の会員と教職員などが出席し、主管校である昭和大学の医・歯白菊会からも合わせて99名が参加し、物故会員への黙祷を捧げた。

総会後には、昭和大学の学生音楽サークルMedical All Stars Jazz Orchestraが「元気の出るスタンダードジャズ」というタイトルで演奏し、参加した会員の耳を楽しませた。

昭和大学医学部同窓会では
所得補償保険、傷害疾病保険、医師賠償責任保険等、
各種補償制度を取り扱っております。
取扱代理店：
昭友商事株式会社
TEL：03-3784-8280
http://www.shoyu-trading.com



医学堂書店
品川区
旗の台
電話(03)
3783-9774